

ACTIVITY REPORT *of* Alba Edu Inc.

活動報告書

2023年度

一般社団法人アルバ・エデュ

Supported by

日本
財団
THE NIPPON
FOUNDATION

アルバ・エデュTOPICS

TOPIC 1

さまざまなステークホルダーによる認知拡大

▶ 詳細 5～7 ページ

自治体・教育委員会、教育行政、財界等、新たに活動を知っていただく機会が増えました。そのなかで、第2回「話す力を育成する官民合同シンポジウム」を開催。教科書会社等から多数のご参加を賜りました

▶ 詳細 8 ページ



TOPIC 2

一般メディアへの露出増加 教育系メディアにも注力

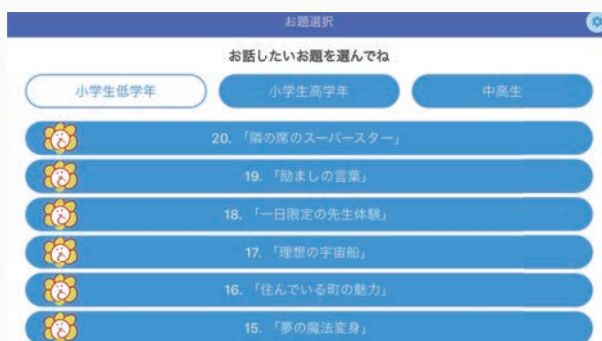
副教材や教育系冊子の監修、教育系メディアへの寄稿が増え、多くの教育関係者へ考えをお伝えすることができました ▶ 詳細 12 ページ



TOPIC 3

話す力を高めるアプリ 「めざせ! Speak Up スタジアム」の 開発開始

教室での教員負担を減らすべく、子どもに寄り添い、発話を促すツールを開発しています ▶ 詳細 8 ページ



TOPIC 4

自治体・教育委員会との連携強化

2023年度は教育委員会と連携し研修や自治体へのアドバイザーとして尽力しました。教員研修の受託は昨年度の4倍になりました ▶詳細6ページ
教員アンケートの結果 ▶詳細10ページ



目次

● アルバ・エデュ TOPICS	1
● アルバ・エデュの理念	3
└─ なぜこの活動を始めたのか	4
● 各ステイクホルダーへの働きかけ	5
└─ 自治体・教育委員会	5
└─ 教科書・研究者 / 教育行政 / 学校・教員	6
└─ 官界・財界・その他 / 企業 / 個人	7
└─ シンポジウムの開催	8
● 実証研究	9
└─ 実証・教員アンケート	10
● 活動周知 出版・監修	11
└─ メディア掲載実績	12
● 社会貢献活動	13
● アルバ・エデュについて	16
└─ 代表紹介 / 団体概要	17

アルバ・エデュの理念

VISION

すべての子どもに話す力を

MISSION

教育現場へのプログラム提供を通じて子どもたちの自己効力感と学級内の心理的安全性の向上を助け、子どもたちの話す力、生きる力を育む仕組みを作る

WHY?

この活動は、社会において重要とされる「話す力」が、学校教育の中で体系的には教えられておらず、その結果、個人の能力が出生環境に大きく依存してしまうという問題意識から始まりました

MESSAGE

子どもたちが、少しでも自分の意見が言いやすくなるように
少しでも自分を好きになり、希望を持って生きられるように
少しでもクラス的环境が良くなるように
アルバ・エデュは子どもたちが「イタイコト」を見つけるために、自己理解を促します
自分の考えや思いが相手に伝わり、認められるという成功体験が「できるかも」という自己効力感へとつながります
自治体、学校と協力して、だれひとり取り残さない社会の実現を目指しています

Speak Up! プログラム 実施の様子



東京都江戸川区立中学校での授業の様子

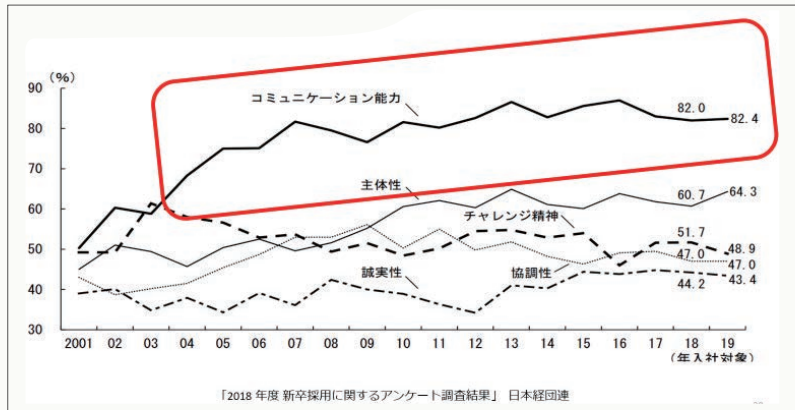


富山市での教員研修の様子

なぜこの活動を始めたのか

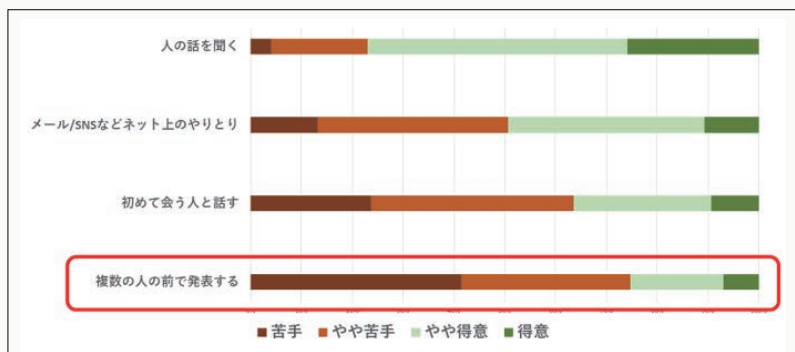
社会で重視される力

経団連が企業に対し行っている「採用の選考時に重視する力」としてはコミュニケーション能力が一貫して最も多い回答です



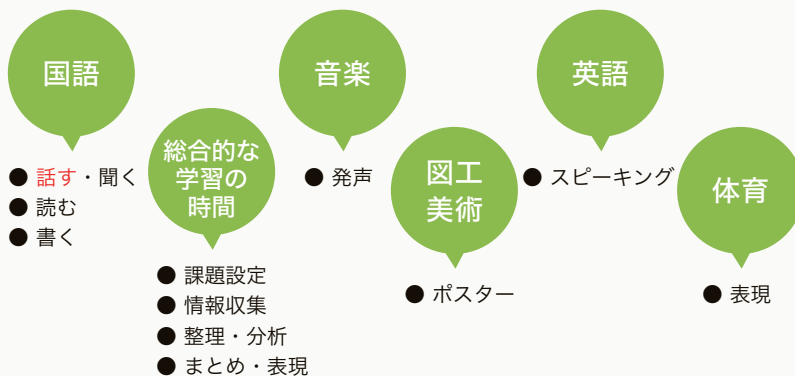
コミュニケーション得意度

日本人は人の話を聞くのは得意な反面、人前で話すのは苦手です



教科ごとに分散する学習内容

現状の教育課程では、自己表現力を育むための要素が複数の教科や単元に散らばっており、体系的に話す力を高めるのが難しい状況にあります



現状

育成環境に左右される「話す力」をすべての子どもが公教育において習得できるよう、各種ステイクホルダーに働きかけを行っています ▶詳細5-8ページ

各ステイクホルダーへの働きかけ

アルバ・エデュが関わるみなさまに「話す力」の大切さをお伝えしてまいりました

1 自治体・教育委員会

自治体・教育委員会には、アドバイザーとしての関わりや、教員研修、モデル授業、カリキュラムの導入、市民向け講座、と子どもから大人まで皆さまの話す力を高めるお手伝いをしています。



「次期金沢型学校教育モデル」
構築会議委員委嘱 金沢市



話す力向上プログラムの導入
市原市



話す力向上プログラムの導入
江東区

2 教科書・研究者

教科書会社の発行する冊子の執筆や副教材作成会社の教材の監修を通じ、話す授業が教育現場で円滑に行われるよう各社と協働しています。学識経験者には、アドバイザーリーボードや実証実験においてご知見をいただいています。



第3回アドバイザーリーボード



東京書籍 全従業員向け講演

1 自治体・教

2 教科書・研

3 教育行政

4 学校・教員

5 官界・財界

6 企業

7 個人

・教育委員会

・研究者

政

教員

財界・その他

3 教育行政

行政当局を始めとする教育業界の関係者に協力し、国民の大多数が「人前で話すのが苦手」という社会課題を解決するために、各種活動に取り組んでいます。



教職員支援機構講演 (NITS)



自由民主党
文部科学部会登壇



文部科学省による視察

4 学校・教員

各種教育メディアへの寄稿、カリキュラムのご提案、教員研修・モデル授業の実施を通して、先生方とともに子どもたちの話す力を育みます。学校で話す授業が当たり前になるよう、現場をサポートしています。教育業界向けの媒体からのご依頼を受け、各種寄稿をしました。教育新聞(全8回連載)、教育情報(巻頭言)、週刊教育資料(全4回連載)、Educo(全3回連載)
▶詳細10ページ



教育情報



週刊教育資料



Educo

5 官界・財界・その他

世界で活躍する人材の育成を念頭に産業人材の養成を支援するという観点から、経済団体等の財界、官界、その他業界の皆さまとの連携を深めています。



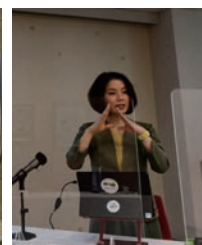
◁ 航空自衛隊
研修



人事院・国家公務員集合研修



FC 今治里山校にて岡田元監督と対談



経済同友会 講演

6 企業

コミュニケーション基礎など人事研修の提供やCSR機会(企業コンテンツを学校の授業へ導入する際のお手伝い、従業員参画の場の提供、スポンサー受入)等、企業と各種連携をしています。



株式会社 Too 新人研修の様子

7 個人

出版、メディア露出、保護者向け講演会を通してメッセージを届けています。学生や大人向けのプレゼン講座や子どもへの声かけを学ぶファシリテーション講座など、個人のリスキングに対応した講座を行っています。▶詳細11ページ

シンポジウムの開催

一般社団法人アルバ・エデュ主催
第二回
話す力を育成する官民合同シンポジウム
「話す力」がなぜ今必要なのか～教育現場・民間企業・国際機関の視点から～

2024年2月6日(火) 14:00～15:30
東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル2F
現地参加・配信観覧無料

パネリスト

吉田昭彦様 (国際通貨基金アジア太平洋地域事務所長)
本多健一朗様 (江東区教育委員会 教育長)
武藤久慶様 (文部科学省初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチームリーダー)
及川美紀様 (株式会社ポーラ代表取締役社長)

登壇者: 伊藤麻由希 (代表取締役)
モデレータ: 伊藤麻由希 (代表取締役)

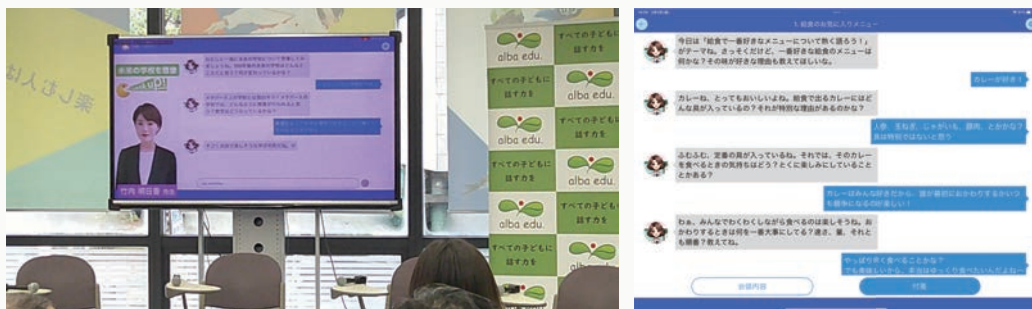


パネリストの皆様からいただいたコメント

- ▶ **国際通貨基金アジア太平洋地域事務所長 吉田昭彦様**
日本人がセルフプロモーションを強化すれば、日本の国際的な存在感を高めることにつながるだろう。
- ▶ **株式会社ポーラ代表取締役社長 及川美紀様**
現代は新しい価値観・概念が次々に出てくる時代であり、先人がやってきたことがすべて正解とは限らない。そうしたときに求められるのは「わたしはこう思う」というI(アイ)メッセージである。
- ▶ **江東区教育委員会 教育長 本多健一朗様**
当区でもアルバ・エデュのプログラムを導入しているが、子どもたちは本当に話したいことであれば、自信を持って話すことができるようになると実感している。
- ▶ **文部科学省初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチームリーダー 武藤久慶様**
教育課程全体で自分なりの問いを立ててそれを伝えるということを増やしていけば、もともと基礎学力の高い日本の子どもたちにとっては鬼に金棒となるのではないかと。

話す力を高めるアプリ「めざせ！ Speak Up スタジアム」の開発

当日は、現在JP UNIVERSE株式会社、株式会社フィラメントと共同開発中の生成AIを用いて子どもの話す力を高めるアプリについても発表しました。プロトタイプの実演に参加者から期待の声をいただきました。



JP UNIVERSE株式会社 代表取締役CEO 田畑端様より

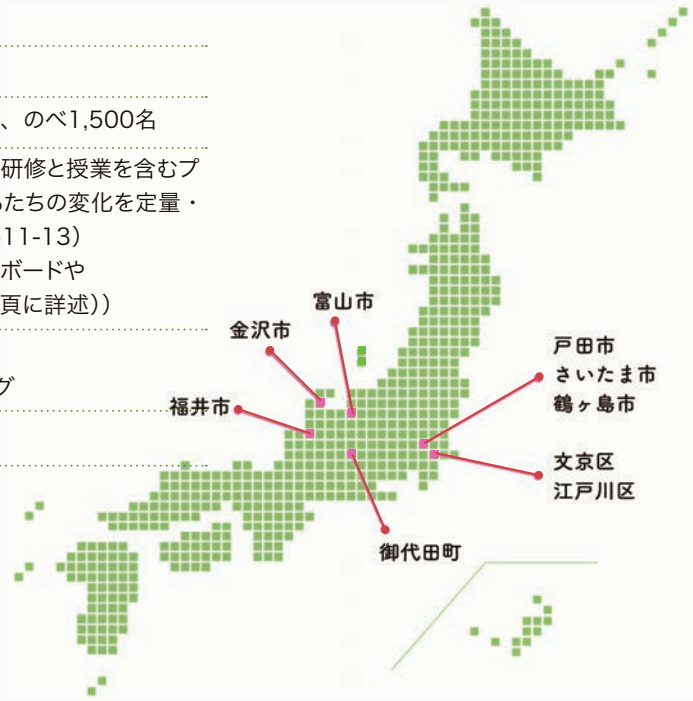
アルバ・エデュの学習メソッドを取り入れ、生成系AIを用いて子どもたちの話す力を引き出すためのアプリを開発している。AIと対話をしながら自分の考えを相手に伝える練習をするというものである。将来的には、表に立って話すことが苦手な子どもでも、アバターとしてみんなの前でプレゼンテーションができるピッチコンテストのような場への展開も考えている。

実証研究(9自治体児童生徒)

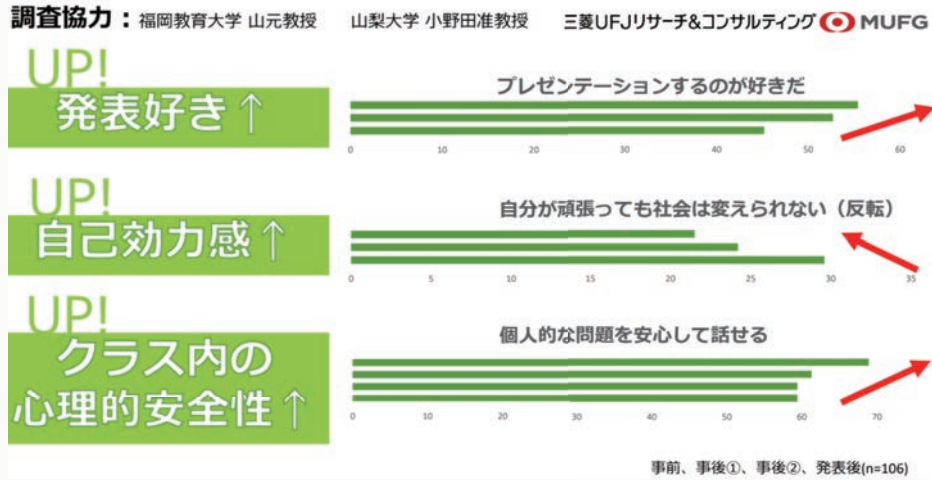
日本財団助成金が採択され、9自治体で実施しました

話す力を高めるプログラム(通称:「Speak Up!プログラム」)の教育的効果を測定するため、実証分析を行いました。

時期	2022年4月~2023年3月
場所	9自治体(地図参照)
参加者	児童・生徒、教員、教育委員会、のべ1,500名
内容	9自治体にて話す力を高める教員研修と授業を含むプログラムを提供し、前後の子どもたちの変化を定量・定性両側面から効果測定(詳細p11-13) 学識経験者によりアドバイザーボードや官民合同シンポジウムの開催(次頁に詳述))
定量評価	山梨大学小野田亮介准教授 MUFGリサーチ&コンサルティング
定性評価	福岡教育大学山元悦子教授



プログラムの効果



日本財団からは、2022-23年度で10自治体へのプログラム導入に関する助成をいただきました。最後となる10自治体目は東京都江東区での実施となりました。
 日本財団からは2024年度の助成も決定しており、社団設立10周年にもあたる今年は、さらに多くの関係者に活動をご紹介してまいりたいと考えています。

実証・教員アンケート(8自治体)

三菱UFJリサーチ & コンサルティングリサーチ結果報告

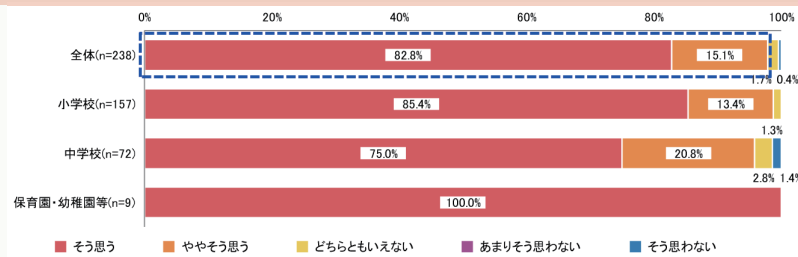
2023年度は、アルバ・エデュが実施する教員研修の受講者を対象に、Googleフォームを用いて受講後にアンケートを実施しました。(回答数：8自治体、480名)

総評 研修は受講者に好評(上図)

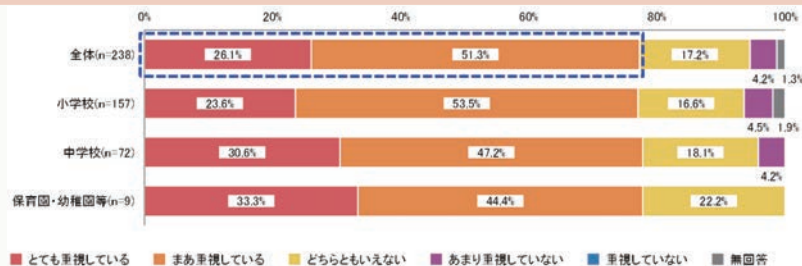
普段の授業において子どもの「話す力」を重視している教員は8割だが(真ん中)

積極的に実施できているのは6割にとどまる(下図)実施していない割合も4割

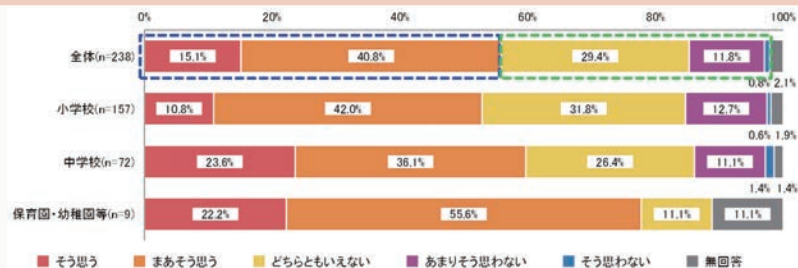
研修の内容はわかりやすかったか(単数回答)



普段の授業において、子どもの「話す力」の育成をどの程度重要視しているか



普段の授業において、子どもの「話す力」を育成するための取組を積極的に実施しているか(単数回答)



受講者の声

- 自分の考えや思いを語るという点が、今回の研修で改めて大切だと感じました。調べたことをただ発表するだけではいけないと思いました。思いをもってどう表現するか、そこに重点をおいて今後の授業に取り組んでいきたいです。
- 自分を主語にして話すということの大切さを感じました。また、考える、伝える、見せるの具体的な方法を知ることができて大変勉強になりました。
- 自己効力感を育むことが大切であると感じた。声の大きさも発声練習や発声のコツ、声帯を鍛えるなどの工夫で変わることがわかった。
- 知識を広げるのはAIのできる。そこから自分で選んで伝えて深めあってより良いものにしていくためにプレゼンがあるという言葉がひびきました。

出版・監修

主に教育に関心のある方向けに出版された『すべての子どもに「話す力」を』（英治出版）に加え、23年10月に『思いを伝える「話す力」』（Z会）が子ども向けに、24年5月に『「話す力」で未来をつくる』（WAVE出版）が保護者向けに出版されました。



すべての子どもに「話す力」を
(英治出版)



思いを伝える「話す力」
(Z会)



「話す力」で未来をつくる
(WAVE出版)

執筆・監修



小中学校の先生方の学級経営や話す授業を支える東研研究報告『「話す力」を育む実践プログラム』（東京書籍 東京教育研究所）の執筆や、“大人になって読み返したくなる”をコンセプトにした『面接ガイド』（正進社）の監修を担当しました。

遊んで学べる「エレピカード®」

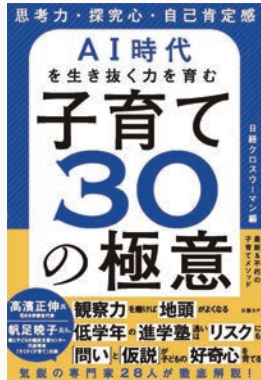


エレピとは、エレベーターピッチの略で、「エレベーターで出会った人に目的階につくまでの数十秒のうちに自分のことを印象づけるためのショートトーク」のことをいいます。このような「とっさのチャンス」をつかむために開発されたのが、このエレピカード®です。楽しみながら即興プレゼンを学ぶことができます。



メディア掲載実績

配信月	内容
2023/05	NHK WEB 子どもたちに“プレゼン”教育を 元銀行員の全国出前授業
2023/05	TBS ラジオくアスタノカレッジ>
2023/05	日経ビジネス電子版<社外取締役と戦略コンサルタントが見る日本企業の課題とこれから>
2023/06	日経 DUAL <「はい、論破」 周囲を言い負かそうとする子への対応は>
2023/07	日経クロスウーマン 思考力・探究心・自己肯定感 AI 時代を生き抜く力を育む 子育て 30 の極意
2023/08	日経新聞オンライン 「はい論破」と言う子への対応は 共感誘う対話の練習を
2023/08	地元ケーブルテレビ 安城市 出前授業
2023/09	テレビ朝日「グッド! モーニング」<きょう注目 NEWS>増加・いじめや孤立のおそれも「はい論破!」マウント小学生
2023/10	日経 DUAL 【生涯役立つ「表現力・対話力」 家庭でお金をかけず楽しく磨く】
2023/10	小学館「みんなの教育技術」
2023/10	週間東洋経済【AI 時代の子育ての教科書】
2023/12 ~	PRESIDENT ONLINE 「子供たちに『昭和の授業』を受けさせたくない…… 息子の授業参観で痛感した『日本の教育』の衝撃的なレベル」ほか
2024/01	PRESIDENT 「心動かすストーリーテリングの技術」
2024/02	教育新聞「官民合同シンポジウム イベントレポート」
2024/02	教育出版 Educo 2024 年第 1 号版
2024/02	週間教育資料 連載 1 回目
2024/03	週間教育資料 連載 2 回目、3 回目



取材は随時受付中！こちらへご連絡ください ▶ albapr@alba-partners.com

社会貢献活動

体験格差をなくしたい!との思いで2020年に自主事業で開始したオンライン授業。2021年度に日本財団の助成事業に採択され、「子ども第三の居場所へのオンライン授業」となりました。2022年度からは同財団の「デジタルトランスフォーメーション基金」の支援対象事業になり、事業を始めてから今年で3年目。今年度は実際に子どもたちと企業に訪問して見学をしたり、プレゼン大会を開催するなど子どもたちと触れ合うことができた1年でした。

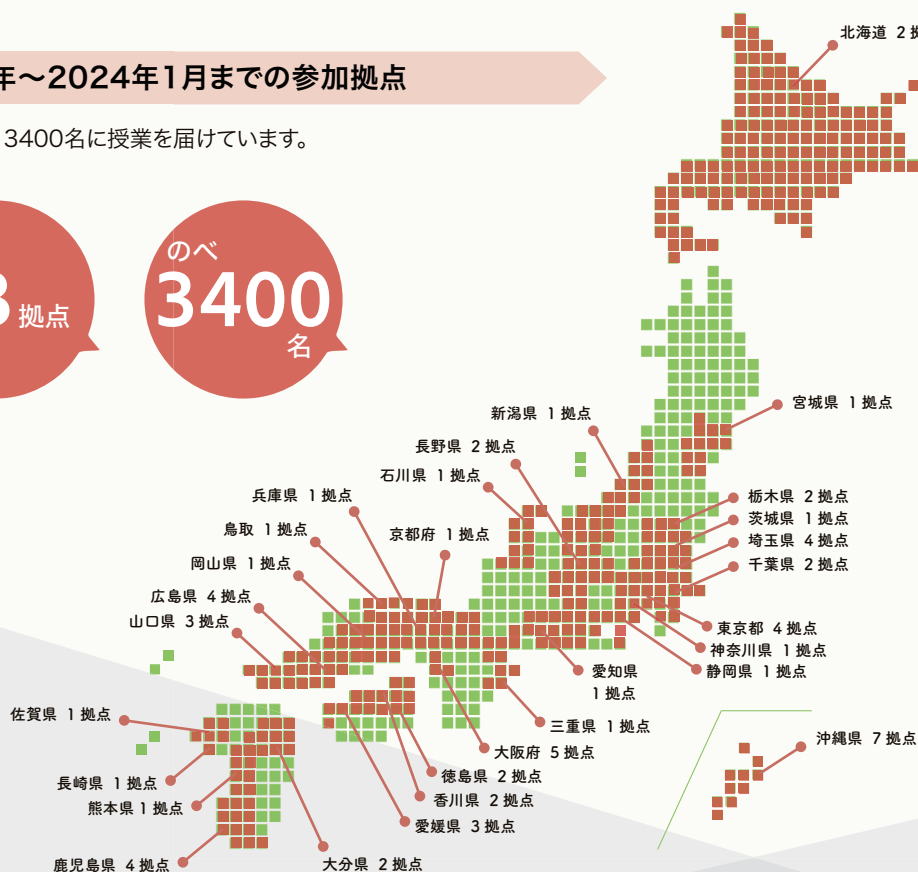
開催日時	内容	講師
6月7日	いんさつのせかいをのぞいてみよう	印刷博物館 インストラクター 山田和美様
6月28日	Google 社員のおしごと	けんいち様 ゆう子様 あやこ様 秋山様
7月10日	変身できたら、なにになる?夢の世界に行く方法を知ろう!	デジタルハリウッド大学准教授 茂出木謙太郎様
7月26日	ユースキン製菓のオンライン工場見学～ハンドクリームができるまで～	ユースキン製菓株式会社 野渡様 高嶋様
7月31日	色々な声でシチュエーションで遊んでみよう～声優のお仕事～	声優 野潤子様
8月2日	オノマトペを使って表現しよう	アルバ・エデュ
8月7日	くだものにチョコをしみこませる オンラインチョコレート工場見学	谷沢菓機工業株式会社 谷沢修次様 メレドショコラ 柳澤一嘉様
8月9日	話す練習をしてみよう	アルバ・エデュ
8月18日	プチプレゼン大会	アルバ・エデュ
10月18日	アフリカ探検セミナー	株式会社 AAIC Japan 小郷智子様
11月22日	今日食べたサケってサケ?	標津サーモン科学館 西尾朋高様
12月27日	テレビ局・ラジオ局に大潜入!エフエム・サンから生放送!	エフエム・サン株式会社 田尾彰毅様
1月26日	図書館ってどんな場所?	図書館流通センター 長田由美様

2021年～2024年1月までの参加拠点

63拠点、3400名に授業を届けています。

63 拠点

のべ
3400
名



アバターブックを作成！

茂出木謙太郎先生

「変身できたら、なにになる？」

「夢の世界に行く方法を知ろう！」

2023年7月10日に開催した、茂出木謙太郎先生の「変身できたら、なにになる？夢の世界に行く方法を知ろう！」授業終了後、みんなでアバターを描いてデジタルアバターブックを作成しました。なんでもできる、何にだってなれるアバターは、みんなの夢がたくさん詰まっていました！



しみしみチョコを試食！

谷沢菓機工業株式会社様・メゾンドショコラ様

「くだものにチョコをしみこませる

オンラインチョコレート工場見学」

2023年8月7日に開催した、「くだものにチョコをしみこませるオンラインチョコレート工場見学」にて、谷沢菓機工業株式会社様・メゾンドショコラ様が参加してくれた拠点にチョコレートがしみこんだいちごと日向夏を送付していただきました！「すっぱいけどおいしい」「ちょっと苦い！」みんなで食べました。



ケーブルテレビ訪問！

エフエム・サン様

「テレビ局・ラジオ局に大潜入！

エフエム・サンから生放送！」

2023年12月27日に開催した、「テレビ局・ラジオ局に大潜入！エフエム・サンから生放送！」香川県坂出市にあるエフエム・サンにb&gまるがめの子もたちと訪問、生放送いたしました。実際に子どもたちと社会科見学をしながら放送するという新しい試みができました！



代表者は市長にプレゼン！

b&gまるがめ様 主催 「3拠点合同プレゼン大会」

2023年12月26日には、b&gまるがめ主催のプレゼン大会の運営をお手伝いさせていただきました。

このプレゼン大会を目標に子どもたちだけでなく、スタッフのみならず、まもプレゼンの授業を受講。ご当地ゆるキャラも参加してくれた素晴らしいプレゼン大会になりました。

大会の後、代表に選ばれた子どもは市長にプレゼンをしに行きました！

四国新聞様、大糸タイムス様に活動の内容を掲載いただきました。



図書館訪問！

図書館流通センター様 「図書館ってどんな場所？」

2024年1月26日に開催した、書館流通センター様ご協力の「図書館ってどんな場所？」の翌日、愛媛県・ちんじゅのりの児童とスタッフの皆様が大三島図書館を訪問。

図書館も居場所であるということを知ってほしいという思いからオンライン授業→リアルでの体験という、一歩進んだ取り組みができました。



ご寄付・ご支援のお願い

あなたの支援が未来を変える！

サポーター募集中！

アルバ・エデュ サポーター募集！！

アルバ・エデュでは継続的に活動を支援して下さるサポーターを絶賛募集中！あなたの寄付でプログラムの全国展開が支えられます。寄付サイト「シンカブル」に登録し、継続的なご支援をお願いします！

選べる4つのコース

¥1000

1ヶ月

¥3000

1ヶ月

¥5000

1ヶ月

¥10000

1ヶ月

ご登録はこちら



アルバ・エデュの沿革

2009年1月	(株)アルバ・パートナーズ設立。企業研修や広報サポートを開始。
	面談先は国内外 900 社。顧客がプレゼンの世界大会にて国内企業初の金賞受賞
2014年7月	子ども向けプレゼンワークショップを開始
2014年12月	一般社団法人アルバ・エデュを設立
2017年度～	東京都教育庁より都立中高向け「プレゼン×キャリア教育」の授業を受託
2018年度～	東京都小中向けオリンピック・パラリンピック教育授業受託
	文京区プレゼンテーション能力向上プログラム受託
2019年度	文京区のプレゼンカリキュラム策定（幼小中）
2020年度～	オンラインおうち学校開校 自治体 GIGA スクール構想アドバイザー受託 JACEVO 助成金採択
2021年度～	日本財団 助成金採択
2022年7月～	富山県富山市教育委員会「話す力を高めるプレゼン教育に関する連携協定」
	9自治体（福井市・金沢市・御代田町等）で効果測定を実施
	学識経験者によるアドバイザーボード開始 第一回シンポジウムを開催し効果を周知
2023年～	江東区・市原市・さいたま市・戸田市において「話す力」向上プログラム（授業・研修）を受託 教職員支援機構にて研修
	金沢市「次期金沢型学校教育モデル構築会議委員」委託
2024年	第二回シンポジウムを開催しアプリのプロトタイプを発表。アプリの実証実験を開始

ここまでお読みくださり、ありがとうございました！
これからもアルバ・エデュをよろしく願いいたします！

代表紹介



竹内 明日香



一般社団法人アルバ・エデュ代表理事
フューチャー株式会社 社外取締役
NRS株式会社社外取締役

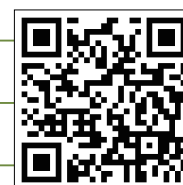
日本興業銀行にて国際事業や審査に従事ののち独立し、海外投資家や日系企業の情報発信を支援して今日に至る。

2014年、子どもの「話す力」の向上を目指す一般社団法人アルバ・エデュを設立。2024年現在、話す力を育むプログラムを60,000名が受講している。

東京大学法学部卒業。公立小元PTA会長。音羽の森オーケストラボコーポ主宰。小学校低学年まで海外在住。二男一女の母。

団体概要

名称	一般社団法人アルバ・エデュ (Alba Edu Inc.)
設立年月日	2014年12月2日
顧問・理事	顧問：早川三根夫(元中央教育審議会委員、岐阜市前教育長) 理事：干場弓子(ディスカヴァー・トゥエンティワン元社長) 田久保善彦(グロービス経営大学院副学長)佐々木繁範(スピーチライター) 吉田大助(日本協創投資社長) 保科真智子(裏千家茶道家)
所在地	〒112-0013 東京都文京区音羽1-17-11 花和ビル308号
連絡先	TEL 03-5981-9271 MAIL info2@alba-partners.com
ウェブサイト	www.alba-edu.org
お問い合わせ	右記のQRコードよりお問い合わせください



お問い合わせ

すべての子どもに 「話す力」を!

The Power of Speech for Every Child!





alba edu.

一般社団法人アルバ・エデュ

